韓国で100万部突破！

異例の大ベストセラー小説、日本でも大ヒット中

82年生まれ、キム・ジヨン

チョ・ナムジュ

訳 斎藤真理子

チョン・ユミ
コン・ユ 共演
映画化
決定

西村ツチカ 描き下しイラスト特別掲載

ストーリーブック

TAKE FREE

キム・ジヨン氏は今年で三十三歳になる。三年前に結婚し、去年、女の子を出産した。出産を機に退職し、夫は帰宅時間が遅く、実家も頼れないため一人で子育てをしている。

キム・ジヨン氏に初めて異常な症状が見られたのは九月八日のことだった。突然、自分の母親が憑依したような身振りと口調で振る舞い始めるが、夫は冗談だと思い、あまり気にしない。

その後も、ジヨン氏の異常はつづいた。知人の女性が憑依したように振る舞い、その人しか知らないはずのことを喋り、自分の技術では作れない料理を作り、普段送らないようなメッセージを送る。しかしジヨン氏自身はそのことをまったく覚えていなかった。

そして秋夕の連休、夫の実家へ行ったとき、事件は起きた。

ジヨン氏は実家に着くと、姑とともに休みなくお祝いの料理を作り続ける。

食卓で夫の妹が、これからはこんなに手作りしなくていい、ジヨンさんも大変だし、と言うと、姑は寂しそうにし、いきなりジヨン氏に「あんた、大変なの?」と尋ねた。すると突然、ジヨン氏はさーっと赤くなり、自分の母親が乗り移ったかのような口調でこう答えた。

「ああ、もう、お義母さん。うちのジヨンはねえ、実は、帰省のたびに体をこわすんですよぉー」

場は凍り付き、不機嫌になった舅に対してジヨン氏は「うちだって、家族なんですよ。」「うちの子だって里帰りさせてくださいよ」と落ち着き払って言う。

その場から慌ててジヨン氏を連れて帰った夫は混乱し、自分の妻が別の人になってしまったようで恐ろしくなる。

夫はまず一人で精神科を訪れ、治療法を相談した。

ジヨン氏は自覚症状がなかったが、育児うつではないかと思っていたと言い、カウンセリングを受けることに同意する。

カウンセリングによって幼少期から結婚・出産までの彼女の半生を振り返っていく中で、女性の人生に立ちはだかるものが浮かび上がる。

そしてラスト一行、衝撃の結末が待ち受ける――。

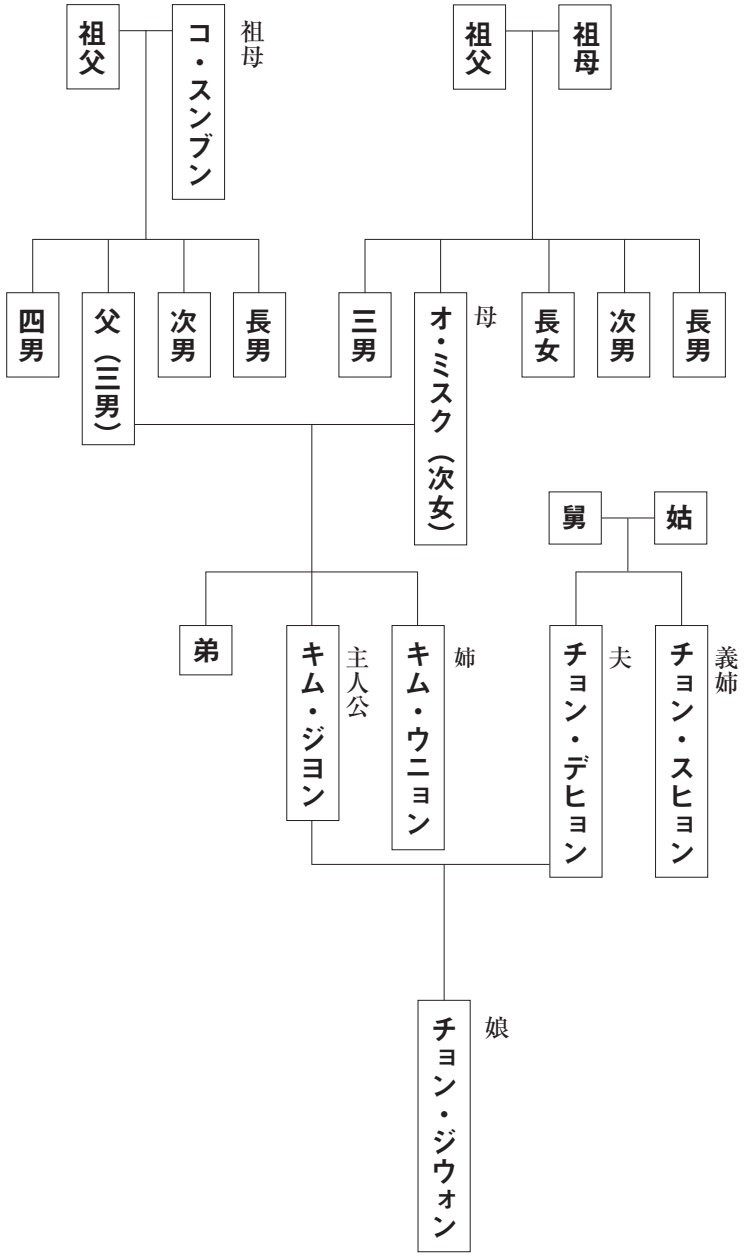
キム・ジヨン氏の半生

西村ツチカ氏が本冊子のために描き下ろした絵とともに、
キム・ジヨン氏の半生をダイジェストする

文：チョ・ナムジュ（本文より抜粋）
訳：斎藤真理子
絵：西村ツチカ

男性たちが、ふるまいも思考もありのまま正確に描かれている感じがしました。
男性の自分は、ここに書かれた女性たちの気持ちを、充分理解していると思いませんが、
きっと同じくらいありのまま正確に描かれているだろうなと思って読みました。
読み終えた後は、日常が違って見えました。
——西村ツチカ

西村ツチカ／漫画家、イラストレーター。2010年、短篇集「なかよし団の冒険」（徳間書店）でデビュー。同作で第15回文化庁メディア芸術祭マンガ部門新人賞受賞。他の作品に「かわいそうな真弓さん」（徳間書店）、「さよーならみなさん」（小学館）がある。また、インディー出版レーベルのDIORAMA BOOKSが発行する漫画雑誌「USCA」「DIORAMA」にも漫画を発表している。2017年、「北極百貨店のコンシェルジュさん」（小学館）と短編集「アイスバーン」（小学館）を同時に発表。ビッグコミック増刊（小学館）で「北極百貨店のコンシェルジュさん」連載中。



「私も先生になりたかったんだよねえ」

お母さんというものはただもうお母さんなだけだと思っていたキム・ジョン氏は、お母さんが変なこと言ってると思って笑ってしまった。（中略）

「じゃあ、今、先生になれば？」

「今は、お金を稼いであんたたちを学校に行かせなくちゃいけないでしょ。みんなそうだよ。このごろのお母さんは、みんなそうやってるの」

お母さんは自分の人生を、私のお母さんになったことを後悔しているのだろうか。長いスカートの裾をグッと押さえつけている、小さいけれどずっしりと重い石ころ。キム・ジョン氏は自分がそんなものになったような気がしてなぜか悲しかった。母はそんな気持ちに気づいて、娘の乱れた髪の毛を優しく指ですいてくれた。

（31 - 32ページより）

キム・ジヨン氏はその日、父にひどく叱られた。何でそんな遠くの予備校に行くんだ、何で誰とでも口をきくんだ、何でスカートがそんなに短いんだ……。そんなふうに育てられてきたのだった。気をつけろ、服装をきちんとしろ、立ち居振る舞いを正せ、危ない道、危ない時間、危ない人はちゃんと見分けて避けなさいと。気づかずに避けられなかったら、それは本人が悪いんだと。

（61-62ページより）

「女があんまり賢いと会社でも持て余すんだよ。今だってそうですよ。
あなたがどれだけ、私たちを困らせてるか」
どうしろって言うの？　能力が劣っていてもだめ、優れていてもだめ
と言われる。その中間だったら中途半端でだめって言うんでしょ？

（90ページより）

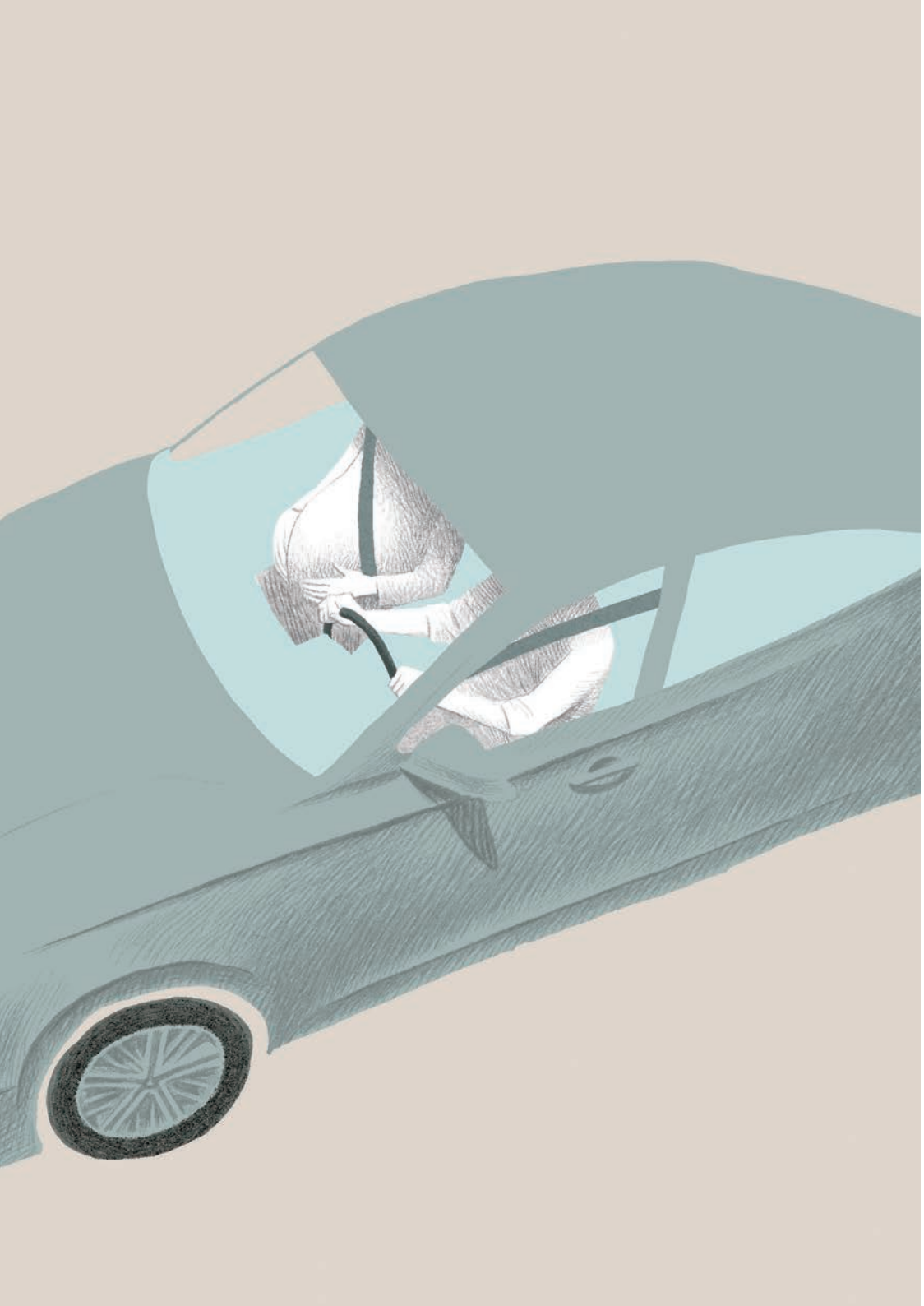
父

「おまえはこのままおとなしくうちにいて、嫁にでも行け」

母

「いったい今が何時代だと思って、そんな腐りきったこと言ってんの？
ジョンはおとなしく、するな！　元気出せ！　騒げ！　出歩け！　わかった？」

（98ページより）



「でもさ、ジョン、失うもののことばかり考えないで、得るものについて考えてごらんよ。親になることがどんなに意味のある、感動的なことかをさ。それに、ほんとに預け先がなくて、最悪、君が会社を辞めることになったとしても心配しないで。僕が責任を持つから。君にお金を稼いでこいなんて言わないから」

「それで、あなたが失うものは何なの？」

「え？」

「失うもののことばかり考えるなって言うけど、私は今の若さも、健康も、職場や同僚や友だちっていう社会的ネットワークも、今までの計画も、未来も、全部失うかもしれないんだよ。だから失うもののことばっかり考えちゃうんだよ。だけど、あなたは何を失うの？」

（128-129ページより）

「その「手伝う」っての、ちょっとやめてくれる？　家事も手伝う、子育ても手伝う、私が働くのも手伝うって、何よそれ。この家はあなたの家でしょ？　あなたの家事でしょ？　子どもだってあなたの子じゃないの？　それに、私が働いたらそのお金は私一人が使うとでも思ってんの？　どうして他人に施しをするみたいな言い方するの？」

（137ページより）

「私も、大学は出てるんですよ」
いきなりそう言われてキム・ジヨン氏はあわててしまい、それから寂しくなった。頭の中で店員のその言葉がぐるぐる回った。夜遅く帰宅したチョン・デヒョン氏に意見を聞いてみると、彼はしばらく時計を見ながら考えていたが、こう聞き返した。
「やりたい仕事なの？」

（154-155ページより）

俺も旦那の稼ぎでコーヒー飲んでぶらぶらしたいよなあ……ママ虫もいいご身分だよな……韓国の女なんかと結婚するもんじゃないぜ……。

（中略）

「ママ虫なんだって、私」

その答えに、チョン・デヒョン氏は長いため息を漏らした。

「そんな書き込み、全部、小学生が書いてるんだよ。インターネットに出てくるだけで、実際に言う人なんかいないよ。誰もそんなこと思ってない」

「違うよ。さっき私、この耳で聞いたもん。あそこの道渡ったところの公園で、三十歳ぐらいの、スーツ着て会社に行ってるちゃんとした男の人たちが、私にそう言ったよ」

（158-159ページより）

日本の読者のみなさんへ

この小説を書きはじめた二〇一五年、韓国では多くの事件がありました。道徳観念のない女性たちが、MERS（中東呼吸器症候群）にかかっているのに隔離を拒否したという噂が流れました。もちろん事実ではありません。女性をばかにする暴力的な言葉を使ったお笑い芸人が番組を降板しました。母親を虫にたとえる「ママ虫」という造語が生まれました。韓国最大のポルノサイトにおいて、盗撮やレイプの共謀などの話題が公然とやりとりされていたことが明らかになりました。

私は、誰も女性だからという理由で卑下や暴力の対象になってはならないと考えてきました。女性たちの人生が歪んだ形で陳列され、好き勝手に消費されていると感じました。女として生きること。それにともなう挫折、疲労、恐怖感。とても平凡でよくあることだけれど、本来は、それらを当然のことのように受け入れてしまってはいけないのです。そういう物語を書きたいと思い、そこから『82年生まれ、キム・ジヨン』という小説は始まりました。

この小説はありがたいことに韓国で多くの読者に出会うことができました。そして、読者イベントやお手紙、ブックレビューを通して読者自身の話を聞かせてもらうこともできました。キム・ジヨン氏より年上の女性たちも、若い女性たちも、この小説はまるで自分の話のようだと言っています。共通する経験、そのときには気づかなかった感情、似ているようで違っているそれぞれの選択……おかげで女性たちの多様な物語が世の中に現れ、大きな意味を持って受け入れられました。

女性たちをとりまく世界は変わりつつあります。Me too 運動はハーヴェイ・ワインスタインをはじめ、性犯罪を犯した政界・文化界の大物たちを追い出しました。アイルランドは国民投票によって、妊娠十二週までは制限なく妊娠中絶を許容しました。賃金公開制度を実施する国家が増えています。韓国の女性たちもまた、メディアによる性の商品化を指弾し、家父長的な慣習に叛旗を翻し、自分が経験した性暴力を暴露して厳重な処罰を要求しています。

日本の読者の方々にとっても『82年生まれ、キム・ジヨン』が、自分をとりまく社会の構造や慣習を振り返り、声を上げるきっかけになってくれればと願っています。あなたの声を待っています。

二〇一八年秋

チョ・ナムジュ

조남주

統計でよむキム・ジヨン

本書では女性をめぐる様々な統計が提示されます。その一部と、日本での統計を合わせて紹介します。

女性管理職数

韓国

2006 年に 10.22 パーセントだった女性管理職の比率は、粘り強く、しかしわずかずつ増加して 2014 年には 18.37 パーセントになった。だが、まだ 10 人中 2 人にもならない。（本文 P.91 より）

日本

日本は管理職に占める女性割合が 12.4 パーセントであり、女性の管理職数と取締役に占める割合が OECD 諸国中最下位で、公職における女性指導者の数も少ない。日本の上場企業の取締役に占める女性割合は 3.4 パーセントと OECD 諸国中 2 番目に低い。
(2017 年 OECD 報告書「男女平等の追求：苦難の道のり (The Pursuit of Gender Equality: An Uphill Battle)」より）

育児休暇・休業取得率

韓国

出産した女性勤労者の育児休暇取得率は、2003 年に 20 パーセント、2009 年には半分を超えたものの、依然として 10 人中 4 人は育児休暇なしで働いている。もちろんそれ以前に、結婚、妊娠、出産の過程で辞めてしまったため、育児休暇の統計サンプルに入っていない女性も多い。（本文 P.91 より）

日本

日本における出産した女性勤労者の育児休業取得率は 82.2 パーセント。一方男性の取得率は 6.16 パーセントと、10 人に 1 人にも満たない。（厚生労働省「平成 30 年度雇用均等基本調査（速報版）」より）

男女の賃金格差

韓国

大韓民国は OECD 加盟国の中で男女の賃金格差が最も大きい国である。2014 年の統計によれば、男性の賃金を 100 万ウォンとしたとき、OECD の平均では女性の賃金は 84 万 4000 ウォンであり、韓国の女性の賃金は 63 万 3000 ウォンだった。また、英国の『エコノミスト』誌が発表した「ガラスの天井（マイノリティや女性の昇進を妨げる、目に見えない壁）指数」でも、韓国は調査国のうち最下位を記録し、最も女性が働きづらい国に選ばれた。（本文 P.118 より）

日本

日本は男女の賃金格差が OECD 加盟国の中で韓国、エストニアに次いで 3 番目に大きい国である。2017 年の統計によると、男性の賃金を 1000 円としたとき、OECD の平均では女性の賃金は 865 円、日本の女性の賃金は 755 円だった。*1
「ガラスの天井指数」では日本は韓国に次ぐ最下位から 2 番目を記録している。*2

*1 OECD (2019), Gender wage gap (indicator). doi: 10.1787/7cee77aa-en (Accessed on 25 July 2019)
*2 2018 年度『エコノミスト』誌調べ https://www.economist.com/graphic-detail/2019/03/08/the-glass-ceiling-index

既婚女性の離職率

韓国

キム・ジヨン氏が会社を辞めた 2014 年、大韓民国の既婚女性 5 人のうち 1 人が、結婚・妊娠・出産・幼い子どもの育児と教育のために職場を離れた。韓国女性の経済活動は、出産期前後に顕著に低下するものの、20 ～ 29 歳の女性の 63.8 パーセントが経済活動に参加し、30 ～ 39 歳では 58 パーセントに下落し、40 代からまた 66.7 パーセントに増加する。（本文 P.138-139 より）

日本

育児休業制度が整いつつある現在でも、1 人目のこどもを産む際には 100 人中ほぼ半分の 47 人が離職しています。*1（中略）ところが現在専業主婦の女性に就労意欲を尋ねた調査では、明確に「働かない」ことを希望している人は、100 人中わずか 8 人であるという結果が出ています。*2
（国保祥子『働く女子のキャリア格差』(ちくま新書) より）

*1 国立社会保障・人口問題研究所「第 15 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」2015 年の調査
*2 三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング「平成 20 年度両立支援に係る諸問題に関する総合的調査研究」報告書

チョン・ユミ、コン・ユ共演で映画化決定！

この反響からついに映画化も決定。主人公キム・ジヨンを演じるチョン・ユミとその夫役、チョン・デヒョンを演じるコン・ユは「トガニ　幼き瞳の告発」「新感染ファイナル・エクスプレス」に続き、3作目の共演となります。キム・ドヨン監督が手がけ、すでにクランクアップしており、公開間近となっています。

既に台湾でもベストセラーとなり、ベトナム、英国、イタリア、フランス、スペインなど18ヵ国・地域で翻訳も決定しています。

各国の書影・左から韓国版／韓国100万部突破記念特装版／台湾版／アメリカ版

「女性たちの絶望が詰まったこの本は、未来に向かうための希望の書」

松田青子

「これはわたしの物語」この小説は一つの＜事件＞だ！

『82年生まれ、キム・ジヨン』は、韓国で2016年10月に刊行されました。当初は担当編集者も1万部はいかないと予想していたそうですが、1年足らずで10万部を突破することとなりました。

キム・ジヨン氏を抑圧しつづけた社会のあり方は日本に生きる私たちも自分のことのように感じる部分が多くありますが、韓国ではその共感性の高さから、国内だけで100万部という異例の大ベストセラーとなりました。

K-POPアイドルなど影響力のある芸能人が度々話題にしたことでも注目を集め、ガールズユニット、Red Velvetのアイリーンが本書を読んだと発言したところ、一部男性ファンが「アイリーンがフェミニスト宣言をした」として一斉に反発、アイリーンの写真やグッズを破損する様子を動画投稿サイトに投稿するという事態も起きました。

少女時代・スヨン、BTS・RMも読んだ！

アイリーンだけでなく、少女時代のスヨンやBTSのRMも『82年生まれキム・ジヨン』に言及しています。2018年1月、少女時代・スヨンはYouTubeを介して放送されたリアリティ番組『90年生まれチェ・スヨン』で「読んだ後、何でもないと思っていたことが思い浮かんだ。女性という理由で受けてきた不平等なことが思い出され、急襲を受けた気分だった」と、BTS・RMも昨年、NAVERのVライブ生放送を通じて「示唆するところが格別で、印象深かった」と本書にコメントを寄せました。

さらには韓国の国会議員が文在寅大統領の就任記念に「女性が平等な夢を見ることができる世界を作ってほしい」と手紙を添えてプレゼントするなど、国全体に及ぶ社会現象を巻き起こしています。

各世代から反響の声、続々

本書に寄せて、
そして女性が生きることをめぐって
1954年生まれから2000年生まれまで
65歳から19歳までの声が集まりました。

94年生まれで日本育ちですが、九州で生まれ育ち、18才で上京したとき同じ日本でも男女の“差”があることに気づきました。そのことを再認識し、そしてこれから25才になってより起こりうることが少しでもなくなるような未来をつくりたいです。私たちのような若い女の子でも変えたいです。**この本を大分の親友に送ります。あたらしい話を彼女とできることが未来を変える一歩だと思います。この本に出会えてよかったです。**

94年生まれ、久保泉

韓国のアイドルが読んでいたから、**韓国でベストセラーとなっていたから、という理由で手にとってみましたが、実際に読んでみて共感することが多く、母や友達などにすぐすすめました。**ほんとうにたくさんの人に読んでほしい本だと思います。

99年生まれ、無記名

違和感を言語化することは難しく、この性差別という問題に気がついてしまえば自分が周りの女の子たちと同じように生きることが難しくなることを感じていたので、考えることから逃げていました。
この本を読んで、今まで生きてきた19年間で感じてきた**違和感を全て言語化されていて、感情が溢れ出し、怒り、悲しみ、涙が出ました。**私はもうすぐ社会に出なくてはいけません。今以上に多くの性差別の蔓延る社会に。怖いです、嫌です、性別で差別されるなんて。私は**これから生まれる女の子たちが、私よりも楽に生きていける社会になるように、差別されながら差別と戦って生きていこうと思います。**私がもし結婚することになるとしたら、育児も家事も「手伝う」男性でなく、「一緒に」当たり前にする男性と結婚したいです。

2000年生まれ、みらす

「私の話」として共感し、「あなたの話」を聞かせてほしいと、この小説を友人にすすめています。「セクハラもうまくスルーする」「上手に男の人をたてるのが大人」などなぜ女性ばかりが強いられなければならないのでしょうね。21世紀もはじまって20年近くなるのに。**「私たちの世代で変えたい」と祖母も母も私も考えているけどできるかな。**もう**性別で役割を語るのは終わりにして、「その人」のことを語って、「その人」の話を聞く時代にしたいです。**

92年生まれ、ゆう

これは**すべての性別の、年代の、国の人が読むべき本**だと感じました。共感できること、そもそも経験していないこと、読む人によって内容はさまざまに受け止められると思います。私も世代ゆえか、**共感より衝撃が大きかったです。多くの人が読んだらきっとなにか変わるだろう、と確信できるような作品でした。**本当に読んでよかったです。母にもすすめたいです。

98年生まれ、はな

私も、キムジヨンです。そう思わずにはいられないくらい、この本に心当たりがあります。私は先日20歳になったばかりの学生ですが、母になった後のキムジヨンの姿にも、自分のことのように胸が痛くなるのです。**まるで自分の未来をみているようで、私の母の過去をみているようで…。**自分は将来、母になるのだろうか。私の未来は、「母」と「私」が共存できるのだろうか。やりたいことで溢れる今の私が、取捨選択を迫られる日は来るのだろうか。今までのように自分一人で考えているだけではいられないです。

99年生まれ、ひなの

“人に話したくなる、すすめたくなる、感想を知りたくなる”まさにそういう本でした。**これまでこんなに人にすすめた本はありません。**

84年生まれ、K ana

本を読む前は、**話題になっているから読んでおくか、という軽い気持ちだったが、読み進むにつれて私のことかな？と思ってドキリとした。**日本でもこの本をきっかけとして考える社会になってほしい。

86年生まれ、アキコ

私の会社では機嫌の悪い人のことを「女子」といいます。指摘する程ではないと思っていたけど、みんな違和感を持っていたんだと、**だれかと団結したような気持ちになれました。**

87年生まれ、まる

とにかくみんなに（特に男性に）この本を読んで欲しいと思いました。とにかく女性に関する自分の無知さをつきつけられ、一文一文に包丁をつきたてられるような気持ちで読みました。特に印象に残ったエピソードは、私たちのお母さんは、手作りでなくても、市販の料理や何やらで私たちをここまできちんと育ててくれた、というような言葉があったのですが、母子家庭で、働きながらぐうたら家事をやっていた、**自分の母親を思い出し、すごく好きなシーンです。**

89年生まれ、無記名（男性）

まさに日本においても医大入試をはじめとして差別が浮き彫りになっていますが、韓国と違い大きな反動が起こるわけでもなく、中高年としては忸怩たる思いです。多くの日本人にも読まれるべき本だと思います。**キム・ジヨン世代の３人の娘にも是非おすすめするつもりです。**

54年生まれ、Kyoko Iwai

本作を読んで、とても胸にひびきました。私は晩婚で子供はいませんが、姉に娘がいて、その子が産まれてから色々と考えていた事が文章化されていました。これから、**姉・母に本を買って読んでもらおうと思ってます。会社の若い女の子にもプレゼントしたい。**

77年生まれ、さやか

女性差別のみならず、いろいろな形の「差別」というものについて考えるきっかけとなった。「精神科医のカルテ」という書き方をとることにより、**激情的にならず、シンプルにフラットに事実を伝えている構成がすばらしい**と思った。私は女性だが、これを男性が読んだらどう感じるのかということを考えながら読んだ。男性からしたら、少々気分が悪くなっても仕方ないと思う。**「男も分かれ！！」と一方的に押しつけるだけでなく、男性の意見にもきちんと耳を傾けたい。**

81年生まれ、あひる

この本は、日本を、世界を変えられる力を持った本です。

82年生まれ、佐々木

各界からの推薦コメント

次から次に積み上げられる不条理を前に、
思わずもっと楽しんで生きようよ、
と言ってしまいたくなる人もいるだろう。
だから私はあえて言いたい。
「これが私たちの日常だけど、なにか？」、と。
——鳥飼茜

これは女性だけの物語ではない。
フェミニズムに抵抗がある人にも読んで欲しいし、
一緒に考えるべき一冊だと思う。
10年後のキム・ジヨンがどんな人生を送っているか、
それは今を生きる私たちにかかっているのだ。
——村田沙耶香

小説は語れなかった名もなき感情に言葉を与えることができる。
だから、韓国中の女性たちがこの本に熱狂したのだ。
自分の中の言葉にならなかった、声に出せなかった感情が、
ここにすべて書かれているから。
——星野智幸（「ちくま」2019年1月号書評より）

フェミニズムって、実は学問でも思想でもなく、
女性たちの日常の中にある。
それは生きるものであり、暮らすものだ。
ということを小説にしたからこんなにパワフルなんだと思う。
日本のキム・ジヨンも読みたくなった。
——ブレイディみかこ

女であるということ。たったそれだけで、そのせいで、
被らなければならなかった無数の悲しみ、
それらを耐えなければと繰り返しこらえ続けた狂おしさが……
実は、自分だけのものではなかった、と思えたなら、
それだけでもたぶん救いになるんだ。
救われるべき人たちに届きますように。
——温又柔

この本のノンフィクション的書法での女性差別への抗議は
一歩先に行ってる。良きベストセラーが国を動かすケースだ。
——いとうせいこう（twitterより）

たくさんの私たちに本の中で出会い、
時々胸が詰まる思いでした。
——伊藤詩織

つらかった。出来事も感情もわかりすぎてきつかった。
女性を取り巻く状況はそう簡単には変わらないだろう。
それでも勇気をもって書かれ、刊行された本がここにある。
このスタートラインに立って走ろう。一緒に。
——深緑野分

一気に読んだ。登場人物が、理不尽さに甘んじることなく、
自らの手で成功を掴んでいく様子は痛快だ。
それにしても驚くのは、これが百年前ではなく、
現代の物語ということ。
もちろん日本も他人事ではない。
哀しみと同時に、勇気をもらえる小説だと思う。
——古市憲寿

著者　**チョ・ナムジュ**

1978 年ソウル生まれ、梨花女子大学社会学科を卒業。卒業後は放送作家として社会派番組のトップ「PD 手帳」や「生放送・今日の朝」などで時事・教養プ ログラムを 10 年間担当。2011 年、長編小説「耳をすませば」で文学トンネ小説賞に入賞して文壇デビュー。2016 年『コマネチのために』でファンサンボル青年文学賞受賞。フェミニズムをテーマにした短篇集『ヒョンナムオッパへ』（タサンチェッパン）に「ヒョンナムオッパへ」が収録されている。
『82 年生まれ、キム・ジヨン』で第 41 回今日の作家賞を受賞（2017 年 8 月）。大ベストセラーとなる。2018 年『彼女の名前は』（タサンチェッパン）刊行。

訳者　**斎藤真理子（さいとう・まりこ）**

翻訳家。訳書に、パク・ミンギュ『カステラ』（共訳、クレイン）、『ピンポン』（白水社）、チョ・セヒ『こびとが打ち上げた小さなボール』（河出書房新社）、ファン・ジョンウン『誰でもない』（晶文社）、チョン・ミョングァン『鯨』（晶文社）、チョン・スチャン『羞恥』（みすず書房）、チョン・セラン『フィフティ・ピープル』（亜紀書房）、チョ・ナムジュ『82 年生まれ、キム・ジヨン』（筑摩書房）、ハン・ガン『回復する人間』（白水社）などがある。『カステラ』で第一回日本翻訳大賞を受賞。

82年生まれ、キム・ジヨン

チョ・ナムジュ　斎藤 真理子 訳

発売日：2018/12/08 ／ 四六並製 ／ 192 頁 ／ 本体 1500 円＋税
ISBN: 978-4-480-83211-5
解説：伊東順子　装丁：名久井直子　装画：榎本マリコ

www.chikumashobo.co.jp/special/kimjiyoung
（特設 WEB）

『82 年生まれ、キム・ジヨン』は変わった小説だ。一人の患者のカルテという形で展開された、一冊まるごと問題提起の書である。カルテではあるが、処方箋はない。そのことがかえって、読者に強く思考を促す。小説らしくない小説だともいえる。文芸とジャーナリズムの両方に足をつけている点が特徴だ。きわめてリーダブルな文体、等身大のヒロイン、ごく身近なエピソード。統計数値や歴史的背景の説明が挿入されて副読本のようでもある。（訳者あとがきより）

「装画について」
榎本マリコ

表紙の顔の中の風景は、ニューメキシコ州のアビキューという土地を描いています。
乾いた風の音と鳥の声以外何も聞こえないような場所で、浄化される感覚を覚えた私の一番好きな場所です。
きっと常々思い焦がれているので無意識にこの風景を描きたくなるんだと思います。
私の作品は、" 此処ではないどこかへ " という想像の中の自由な世界を描くことが多いので、名久井さんがこの絵を選んでくださったことで、今回の主人公の心情にも少しリンクすることができたのかなと思っています。

「装丁について」
名久井直子

わたしが榎本さんのあの絵を選んだコンセプトは、社会の中で自分の顔（主体）があやうい状態を表したかったのです。
透明人間になっているような。
鏡にも風景が映っているのは、鏡にさえ、自分が映らないという喪失感のようなもの、を追加したかったのです。

筑摩書房 営業部販売三課・編　2019 年 8 月 1 日発行／非売品

「行けなくても、知っておきなさいね。
世界はこんなに広いんだってこと」